

令和4年度
学校関係者評価報告書

JO-BI

学校法人 国際総合学園
国際ビジネス公務員大学校

「令和4年度学校関係者評価」の実施結果と今後の課題について

1. 学校法人国際総合学園 国際ビジネス公務員大学校における「令和4年度自己点検・評価」は、令和5年7月27日に前年度の点検評価結果に係る改善内容も視野に入れ、自己点検・評価を実施し、令和5年8月1日に学校評価委員会8名（内代理出席1名）に対し学内職員3名で報告を行い、本書のとおり報告書をまとめた。
本校の自己点検・評価については一般社団法人全国専門学校教育研究会の策定した、自己点検・評価報告書「作成ハンドブック・作成マニュアル」を基本に進めた。
2. 全国専門学校教育研究会版「作成マニュアル」の自己点検・評価基準をベースに、自己点検・評価を行い、その結果を根拠資料とともに提出。その過程において、不備等の改善について、今後の方向性を協議するとともに、今年度以降の取り組み課題とした。
3. 今後の課題として、令和4年度学校関係者評価を受け一定の方向性を持って、学校評価を進めて行くことにより、本校における質の保証・向上のなお一層の取組充実が図れるよう努めていきたい。

学校関係者評価報告書（「学校関係者評価委員会」報告）

1 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

1) 教育理念（建学の精神）

（教育理念）

「教育、文化を通して地域社会、国家の発展に寄与する。」

本校は現代社会の要請、特に地元産業の求める人材の育成を目的とする。

①「スペシャリスト」の育成

実社会で要望され、卒業後すぐ役に立つ資格・能力・知識を備えた「スペシャリスト」を育成します。

②「豊かな人間形成」

社会的常識と基本マナーを備え、明るく健康で建設的な意志をもった社会人を育成します。

- 2) 教育目的・教育目標教育目的・目標・校訓等が定められ明文化もされており、ホームページ上でも公表がなされている。また、「学生の手引き」については、学生証アプリ内に格納し、いつでも閲覧ができる環境を整えている。

■評価委員からの意見等

建学の精神・教育理念・教育目的・教育目標についての意見等はなかった。

2 教育の内容

1) カリキュラム作成等

カリキュラムについては、年2回の教育課程編成委員会を経て業界ニーズを反映したカリキュラムに都度更新している。シラバスについてはHP上で公開し誰でも閲覧ができる環境を整えている。

2) 学習プロセスの改善

毎年2回実施している「授業アンケート」を基にした授業評価、改善内容、担当面談による学校側の改善活動は、教育上必要不可欠である。学生の授業評価は、今後も実施して指導・改善していくことはもちろんのこと、評価の結果を授業改善に活かすという観点から、管理職によるフィードバックの実施を今後も継続し、教育の質向上に努める。また、模擬授業、授業見学や研修も積極的に実施し、指導力の向上に努めている。

3) 教職員の資質の維持や向上

学校法人内での研修は計画的に実施されている。また、外部の機関による研修に参加する機会を増やし、指導力向上と業界の動向を取り入れる機会としている。

■評価委員からの意見等

小項目8の自己点検点数が「3」というのは、シラバスを配布していないからか。大事なのは在校生（入学検討者含む）に伝わっているかどうかであるため紙資料として配布するのではなく、HPで公表する方がよいのではないか。点検項目の「シラバスの配布」を「シラバスの公表」へ修正してもよいのではないか。

■意見を踏まえての対応

意見をもとに学内にて協議し、点検項目を「配布」から「公表」へ修正するとともに点数を「4」へ修正。

3 教育の実施体制

1) 教育環境の整備・活用

- ① 組織機能図については、職員会資料およびHPで内部職員や外部にも公表している。
- ② 学校内の整理・整頓や清掃に関するルール、環境エコ活動に関する規則及び実習時の安全対策に関する文書については、学生の手引きに記載されておりオリエンテーション等で説明をしている。
- ③ 施設・備品等の定期的な点検・管理について、エレベーターや消防設備の点検は定期的に行われている。

■評価委員からの意見等

小項目4については、明確に何冊という評価基準が明確化されているのか。また、スペース的に本校舎に図書室が整備できないのであれば、国会図書館のようなデジタルコンテンツを活用してもよいのではないか。

■意見を踏まえての対応

明確な判断基準はない。学生が調べたいときに調べたい内容の参考図書があるかどうかを判断基準としている。デジタルコンテンツについては前向きに活用していきたい。

4 教育目標の達成度と教育効果

1) 教育目標の達成に係る取組と評価

- ① 学生の就職に関する目標、就職活動の記録、結果の検証・報告、実績については定期的に職員会等を活用し共有している。
- ② 資格・検定・コンペに関する目標、結果の検証・報告、合格者・合格率の公表についても適切な取り組みの評価ができています。
- ③ 退学率の目標、結果の検証・報告、公表については、HPの情報公開ページから閲覧できるようになっている。
- ④ 卒業1年後の就業の把握・公表については、1年後ではなく卒業してから約半年後にハローワークの基準に基づき、就業状況をヒアリングしている。連絡がとれている101名のうち93名が半年後も継続して就業している。半年後の離職率は7.9%（連絡が取れない9名は除く）であった。

■評価委員からの意見等

教育目標の達成度と教育効果については、特に委員からの意見は無かった。

5 学生支援

1) 学生支援に係る取り組みと評価

- ①保護者の会については、現状組織化が難しい状況であるが、保護者へ伝えたい事項については、保護者証アプリを通じて通知する環境を整えた。
- ②企業の会設置については今のところ考えていないが、FSGカレッジリーグの学生を対象に学内合同企業説明会は実施している。また、県内に拠点のあるグループ企業10社が組織している福島法人会がある。その内の1社に就職支援をする会社があり、福島県内の企業と学生を繋ぐ福島県に特化したマッチングサイトを最近リリースした。県内就職を希望する学生たちへはそのマッチングサイトを周知し就職支援の一助としてもらいたい。

■評価委員からの意見等

- ①学内の合同企業説明会はどのように実施しているのか。
- ②県外流出を避けるためにも県内に特化したマッチングサイトはとてもよいと思う。マッチングサイトはグループ企業で開発したのか。
- ③小項目21や24について、障害・障壁になっているものはあるのか。

■意見を踏まえての対応

- ①県内企業を中心に10社ほどを集めて本校内で企業説明会を実施している。20社ほどの場合は、姉妹校の大きな教室を借りて実施している。準備および運営は学内の職員がおこなっている。
- ②システム開発は外部の業者に委託している。運営や支援をグループ企業がおこなっている。登録した学生の情報（学生自身が入力した情報で個人情報を除くもの）を企業側が閲覧し学生へオファーをするというシステム。
- ③障害・障壁になっているのはないものの喫緊の必要性がなかったため組織していない。今後、必要性が感じられれば検討していく。

- 6 社会的活動地域における社会活動や社会貢献、ボランティア活動は学校全体として、年度計画に基づき実施している。年度途中でも地域・企業などからの依頼があった際は、積極的に取り組んでいる。
- 7 管理運営は消防計画等を基に取り組んでいる。また、個人情報保護規定やハラスメントに関する規定については、学生の手引きに記載し周知している。
- 8 財務について、財務法人として健全な財務状況となるべく中長期で収支計画を立てており、適切に外部監査を受けている。なお、学校法人として収支計画を立てているため、情報提供も法人単位としている。
- 9 改革・改善について自己点検評価表にとらわれず、学校運営に関する改善点を今後も提案していく方向性である事を委員会に提言した。様々な意見を基に学校運営に関しては日々精進する。

■評価委員からの意見等

- 6 社会活動から8管理体制について、特に委員からの意見は無かった。

以上

◆学校関係者評価委員

- ・ 三部会計事務所 代表社員
- ・ 福島交通観光 支店長
- ・ かがみいしスポーツクラブ 理事長（代理出席）
- ・ 城西国際大学 准教授
- ・ 国際ビジネス公務員大学校 学校長
- ・ 国際ビジネス公務員大学校 副校長
- ・ 国際ビジネス公務員大学校 教務部長
- ・ 国際ビジネス公務員大学校 事務局長